教育研究所だより

令和4年度 №6（400号）
令和4年 7月1日（金）
発行所：いの町教育研究所

菊池学園公開授業
川内小学校 校内研修

令和4年6月7日、川内小学校で公開授業と学校版寺子屋を行いました。
小学校5，6年合同の、算数科の授業でした。単元名は「立体の体積の求め方を考えよう」で、直方体や立方体の体積を工夫して求めることを通して、多面的に物事を考えたり、分かりやすく友達に伝えたりしていました。

（考え方を共有している様子）

授業者より（抜粋）

- 5，6年が同単元での学習を行うことに不安があったので，4校時目に面積の求め方を学習した。両学年とも，面積での復習ができたことはよかった。
- 5年生は理解を深めるための質問、6年生は相手を意識した質問を出させて、学習を深めたかった。
- 同じ考えの友達とグループを作り、発表させることで、多様な考えを持たせたかった。
- 児童は、自分の説明ができ、自信につながった。

研究協議より（抜粋）

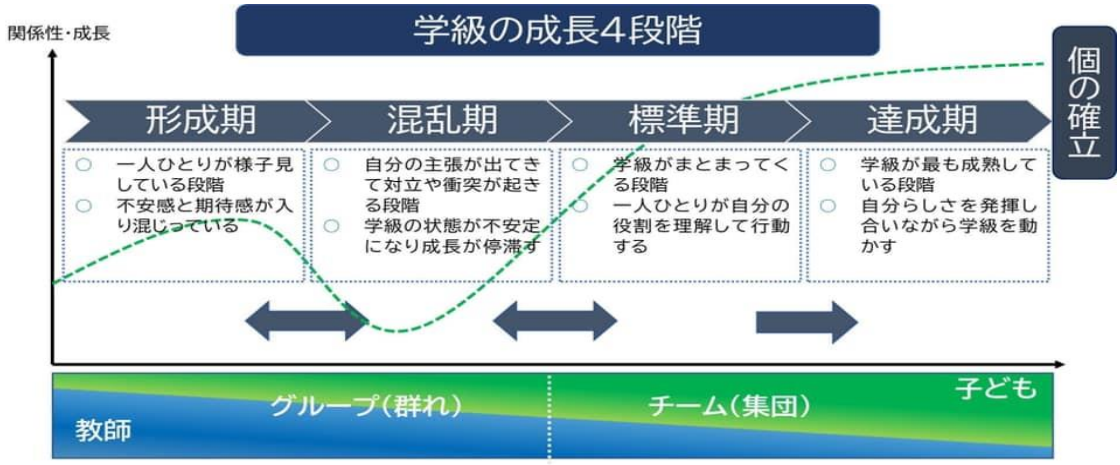
- ペアやグループの対話ができていた。
- いろいろな考え方のオンリーワンから同じ考え方を見つけ出す話し合いに進めばよかった。
- 児童から途中で「答えが120ならOKだよ。」の声があった。初めに答えを確認して、解き方の説明のみでもよかったのではないか。
- 担任の突っ込み（切り返し）も大事。

（菊池先生の飛び込み指導）

講師より（抜粋）

- 面積から体積へと、ステップを踏みすぎると今回の学習が答え合わせになる。
- 拡散から収束に進むチャンスがあったのではないか。「この考え方と似ているのはどれか？」と聞いて、1からつけ足していくと巻き込めたのではないか。
- 仲間分けをするときに、どちらがいいか、立場を決めさせることが大切である。
- 受動的ではなく、能動的な学びをさせる。
- 聞くときに、「え、なんで？」「あ、思いついた！」「思い出した！」「〇〇さんはどういつもりで～？」等、自己内対話をしながら聞くように教える。すると、児童の聞き方が変わってくる。
- 児童に経験をたくさん積ますことが大切である。すると、受容と尊重を生み出す。
（ほめ言葉のシャワー、成長ノート、価値語などで、培われる。）

学校版寺子屋「タックマンモデルと対話・話し合い指導について」



達成期の先をイメージしていますか？

昨年度から、タックマンモデル（上図）の紹介をしてきました。これは、1年間どのように学級を成長させていくかを図にしたものです。

形成期は1学期間かかると言われています。2学期から混乱期に入るということです。そして、混乱期を抜けて標準期に入るには、必ず成功体験が必要です。

さらに先生方が「どんな集団にしたいのか」というゴールイメージを持っていなければ、達成期に到達することはできません。教育への熱が必要なのです。

失敗感を与えない、10割ほめる力

子どもが「わかりません」と答えることがありますね。そのような時、教師はどう切り返せばよいでしょうか？

「先生の教え方が悪かった、ありがとう」「世の中の科学の進歩は、わからないから始まった。君は歴史に名をのこす人になるかもしれないね」のように、子どもに失敗感を与えない返答が必要です。どんな答えも全てプラスに価値付けようとする気持ちで子どもの前に立ちましょう。子どもたちは、一度失敗をするとなかなか口を開けなくなります。

意見が変わった子＝よく学んだ子

「意見」は不正解がないという前提がないと、子どもは手を挙げることができません。「意見は（仮）」この（仮）ということが重要で、「一発で正解しなければいけない」と思っている子どもの心をほぐし、「意見は変わってもいい」を徹底しましょう。意見を変えた子どもを見つけたらすかさずほめて学びを進化させましょう。

菊池先生による模擬授業もありました。写真はグループで集まって意見を出し合っている場面です。1つ意見が出るごとに「ワーイ」と言ってグループで喜びます。教師の机間指導は「内容ができているかを判断する」のではなく「グループの話し合いを促進させる」という視点で行いましょう。

参加者の感想より

学校版寺子屋について

- 授業の中にディベート形式を取り入れることで対話をさせることができる。
- たっぷり時間があり、満足な内容でした。模擬授業と講義が交互にあり、分かりやすかったです。ゴールイメージがないといけないという話が心に残りました。
- 直ぐに実践したくなる、ディベート的な話し合いが経験できました。
- １年間の見通しを持った指導ができているか、と自分を振り返る良い機会となりました。
- 菊池先生のお話も資料もとてもよかったです。
- タックマンモデルをもっと勉強しようと思いました。
- タックマンモデルで見通しを立てていくことの大事さが分かりました。
- 子ども目線となり、実際に体験できたのでとても分かりやすかったです。
- 対話のための介入の仕方がとても具体的で分かりやすかったです。
- 参加者全員が、対話の必要性やポイントを実感できる内容でした。

参考になった点

- 授業の中で少しの時間でいいのでディベートを取り入れて授業づくりを考えてみようと思った。
- 担任の先生のハツラツとした明るさ、ユーモア、一人一人をしっかり見てくれる安心感の中で、子ども達が自分らしさを発揮していたように感じました。
- 「ほめる」ことは相手に興味を持つこと、と言う言葉が印象的でした。そんな意識でほめ言葉のシャワーの取組を続けていかなくてはいけない、と感じました。
- 本気で言うことが大事ということ。ゴールイメージをもつこと。
- 拡散から収束への教師の働きかけ
- 立場を決める活動を取り入れたいと思います。
- 対話・話し合い指導を成功させる教師の言葉かけについて、大変参考になりました。対話をスタートさせるきっかけ(6月といえば・・)が楽しく、対話の良さを実感しました。
- ゴールイメージとタックマンモデルは、色々な場面に適用、活用できるということ。

（菊池先生を真剣に見つめる上甲学級の子どもたち）

「創作系の学習は、開放されており、合意形成ができるクラスでないと成立しません」と語る菊池先生

教育研究所　専門部会<代表者による研究>

◇　幼児教育部会　【部長：川内保育園　保育士　森本　夏希】
【目的】・子どもの成長発達を見通した環境構成や保護者の援助の在り方について研究を深める。

◇　養護教諭部会　【部長：川内小学校　養護教諭　実藤　敦子　】
【目的】・心身ともに健全で、主体的に学習や行動のできる人間の育成について研究を深める。

◇　菊池学園担当者部会　【部長：伊野中学校　教諭　藤本　駿】
【目的】・各校の菊池学園担当者の指導力向上をめざす。
・菊池学園担当者会で研修したことを各職場で共有し、実践に生かす。

◇　小学校体育部会　【部長：伊野小学校　教諭　篠藤　一樹】
【目的】・子どもたちの健康の保持増進、体力の向上について研究を深める。

◇　特別支援教育部会　【部長：伊野南小学校　教諭　高見　育恵】
【目的】・特別支援学級についての情報共有や交流を通して、特別支援教育について理解を深める。

研究所より

本年度最初の公開授業は、川内小学校でした。全てのクラスでほめ言葉のシャワーを公開してくださいました。どのクラスも、温かい雰囲気で今日の主役のよさを伝えていました。1年生が笑顔で発表している姿が、ほほえましく感じました。

公開授業では担任の先生が日頃から「ほめて・認めて・励ます」学級づくりをなさっていることを感じました。5,6年生の子どもたちは積極的に少人数のグループを作って話し合いができており、すてきな学級だと感じました。

専門部会の部長名と会の目的も掲載いたしました。各学校・園の代表者による部会です。本年度の研究もどうぞよろしくお願いします。

いの町教育研究所　TEL893-1922（教育委員会事務局内）TEL893-0255（資料センター）